

令6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472603131	事業の開始年月日	平成 12月 11日
		指定年月日	平成 12月 11日
法人名	医療法人社団仁和会		
事業所名	グループホームひびき		
所在地	(〒252-0232) 神奈川県相模原市中央区矢部2-1-7		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	令和7年1月10日	評価結果 市町村受理日	令和7年4月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和7年1月24日	評価機関 評価決定日	令和7年4月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 当事業所はJR横浜線矢部駅から徒歩7分ほどの住宅地にある。道路を挟んで横浜線の線路があり電車が走行しているが、室内は騒音などほとんど感じられず静かである。線路の向こう側は米軍の補給基地で高い建物がなく見晴らしが良い。利用者も職員と電車を見て楽しんでいる。建物は鉄筋3階建てで、1階が駐車場と玄関で、2階、3階がグループホームになっている。現在、車いすを使用している利用者が数名のほか、在宅酸素療法を利用している利用者がいる。 【安心な医療支援と充実した研修】 同一法人が、入院施設のある病院を運営しているため、家族は、安心して入所させることが出来る。同病院が協力医療機関となり、医師と看護師が往診に訪れている。利用者が体調不良の際には、すぐに受診出来る体制となっており、利用者の安心感に繋がっている。また、法人内のグループホーム3事業所と老人保健施設が連携し、各種の会議や研修を合同で行うと共に、事業継続計画に沿った災害時の協力体制も話し合っている。法人の年間研修計画では、必要且つ豊富な内容が企画されており、職員は集合研修やWEB研修を受講し報告書を提出している。 【利用者を主体としたケアの実践】 理念は「触れ合い支え合い認め合い安らげる生活の場」である。利用者の入所前からのライフスタイルを継続できるように支援することを目的としている。利用者の尊厳を守りながら、身体的・精神的に安定した生活を確保しつつ、利用者それぞれの個性を重視した生活を大切にしている。一人ひとり趣味や考え方が違うので、レクリエーションや行事の企画も個々の希望に合うように支援している。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームひびき
ユニット名	三階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り後に出勤スタッフ全員で唱和し理念を共有している。	理念は「触れ合い支え合い認め合い安らげる生活の場」である。この理念は、各フロアの入り口や玄関、事務室及びキッチン内にも掲示して、職員間で共有すると共に来所者にも見えるようにしている。毎朝、申し送り後に出勤スタッフ全員で唱和している。利用者それぞれに合ったレクリエーションや行事を企画し、理念に沿った支援を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の祭りや消防訓練に参加し交流を深めている。	開所以来、第一矢部自治会に加入し、回覧板が届き地域の情報を得ている。自治会の「消防訓練」に利用者1名と職員2名が参加し交流を深めている。地域の村富神社の祭礼に参加し利用者全員を交代でお連れし、子供みこしや屋台の夜店を見物している。散歩の際には、近隣の方が声を掛けてくれることもあり、利用者は挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の会長や副会長に運営推進会議の時に支援の方法や認知症の方の理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や支援センターの方に取り組み状況等報告し意見を頂いている。	運営推進会議は今年度は6回、対面で開催している。メンバーは、自治会の副会長、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者と家族代表1名、及び職員で構成している。事業所からは、状況報告を行い（行事・事故報告・職員情報・在籍者数）、出席者からは地域の情報や意見を貰っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点等があったら電話で質問をしている。	相模原市高齢者政策課には、運営推進会議の報告書を持参している。相談や不明点等があった場合は電話で相談している。生活保護費を受給している利用者が3名おり、生活福祉課のケースワーカーとは電話で連絡を取り合っており、年1回来所して利用者と面談している。相模原市のグループホーム連絡会に加入しており、年4回の会合に管理者が出席している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	年4回、身体拘束委員会を行っている。その結果を各フロア会議に共有し合っている。	身体拘束等の適正化のための指針を定めている。法人内のグループホーム3事業所と老人保健施設の合同管理者会議で、身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月に一度開催している。法人の年間研修計画で年2回身体拘束廃止の研修を実施し、出席した職員が事業所のフロア会議で伝達している。法人では集合研修の他、毎月のWEB研修の中で身体拘束に関する勉強会をしている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や排泄時に痣や傷が出来ていないかボディーチェックをし利用者に対しての言葉遣いに気を付けている。	虐待の防止のための指針を設定している。3ヶ月に一度開催している身体拘束適正化検討委員会と同日に虐待防止検討委員会を年2回実施している。法人の年間研修計画で、虐待防止の研修を年2回実施しており、輪番で出席した職員が事業所のフロア会議で伝達研修をしている。不適切な対応には職員同士で注意し合い、本部の事務長が来所時にチェックしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	青年後見制度について学ぶ機会はないが立場が弱い高齢者の方の権利を守ると言う理解は全スタッフが理解している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入所される場所で行っている。その時に家族や本人に疑問や質問があれば聞き入れている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	合同行事で家族会を行っている。その時に意見等があれば聞いているがあまり意見が出ないので後日に何かあれば聞くようにしている。	面会は全面解禁している。来所時やケアプラン確認時の電話等で家族の意見や要望を聴いている。月1回、本人の様子や予定について記した手紙に写真を添えて、家族に郵送している。家族とのSNSグループトークを入居時に開設して、緊急時や薬の変更等の連絡の際に使用している。12月20日のクリスマス会に合わせて「家族会」を開催し、3～4家族が参加し交流している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日フロア会議を行いスタッフの意見を聞いたりしている。それ以外に疑問があったら都度聞く機会を作っている。	毎月のフロア会議やケアプラン会議で職員の意見や希望を聞き、議事録及び申し送りノートに記入し共有している。管理者は日頃の業務の中で職員と2人になった時に、意見を聞くようにしている。職員の意見で、口内炎になった利用者の食事形態を、きざみ食に変更した事例がある。行事やレクリエーションは、行事係が中心になって企画・立案し、他の職員も協力して実施している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はスタッフの勤務状況を把握しているので人材が足りない場合でも迅速に対応をしている。	職員は希望休を申請のうえ、月に3日まで取得できる。有給休暇とは別に、夏季休暇と冬期休暇として、それぞれ3日間の休暇がある。結婚した職員には5日間の新婚旅行休暇とお祝い金を支給している。法人本部が職員全員を対象に行う個人面談があり、管理者や職員の意見や要望を聞いている。健康診断は年1回（夜勤者は2回）実施している。全職員を対象にストレスチェックを実施している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設内研修もあり外部研修にも積極的に受けている。	法人からの申請により相模原市から永年勤続表彰がある。キャリアアップ制度があり、職員の努力や勤務状況を把握し、習熟度によって常勤職員は昇給や昇格、パート職員は時給の見直しに繋げている。外部研修は、研修内容によって職員が指名され、座学またはWEB研修を勤務扱いで受講している。新入職員には、本社で1日新人研修を、事業所でリーダーによるOJTを行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に参加して他のグループホームの状況等の話を聞いたりして交流の場としている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の本人が一番心細いと思うのでスタッフが他の利用者との交流を持つためにサポートを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に疑問を聞いたりしているが、その後の対応のためにメール交換をし、いつでも要望等を聞ける形を取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後、環境が変わって日ごとに不安が増していく場合があった時は都度話しを聞いて要望に応えられる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを見つけ出し一緒にやる事で利用者とスタッフの関係が築かれている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報を共有し本人を支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	選挙時期になる時に連絡を取り合っている。	電話や手紙等の取り次ぎ支援を行っているが、緊急以外の連絡はSNSを活用している。家族の対応で外部の医療機関を受診した際に、馴染みの場所を訪ねて一緒に食事をする方もいる。毎年元旦に家族が迎えに来て、家族や親族と食事を共にする事を楽しみにしている方がいる。新聞を個人で購読する方が1名と事業所が購読している新聞を読む方が2名いる。訪問理美容を2ヶ月に1度利用する方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用種同士の会話にスタッフが間に入り一緒に関わりを持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に困ったことがありましたらいつでも連絡して下さいと家族に伝え連絡先はそのままにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	過去の暮らし方等は家族に聞き出し、それを元に本人の希望や意向を聞き把握した情報はスタッフと共有している。	入所前の暮らし方や生活歴を家族に聞き、それを基に本人の希望や意向を把握している。意向の把握が困難な方では、利用者の表情の変化を見て意思表示を推測している。把握した情報は朝夕の申し送りや申し送りノートに記入している。職員は必ず目を通して、確認印を押している。一人で過ごすのが好きな方には居場所や時間の配慮をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、家族に生活歴を聞き支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な食事・入浴時間は決まっているが、それ以外は本人のペースに合わせる生活支援を行っている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する時にスタッフの意見やケアのあり方を検討し、家族の要望を聞き入れて計画作成をしている。	毎月のフロア会議の中で担当者会議を行い、利用者の状態についてモニタリングを行ったうえで、介護計画の見直しを行っている。入所時の介護計画は3ヶ月以内に作成し、その後のモニタリングは3ヶ月毎に行っている。介護計画は本人、家族、職員、往診医、看護師の意見を反映している。アセスメントと短期目標は6か月毎、長期目標は1年毎に見直し、利用者の状態に変化があった場合はその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを重視しスタッフ間での情報を周知しながら計画の作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の変化や家族の変化に柔軟な対応が出来るように準備が出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回合同行事でボランティアを呼んだりスタッフの余興を楽しんだりすることが出来る様に務めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度消化器外科の先生の往診がある。入所前の通院があったり入所後も専門の病院に受診することもあり家族と医師が連携を取ったりしている。	月1回、協力医療機関の医師（看護師帯同）の訪問診療を利用者全員が受診している。往診と外部受診の診療結果は、職員が入居者受診簿や連絡ノートに記入している。歯科医と歯科衛生士が毎週火曜日に来所し、口腔ケアと治療を行っている。薬剤師が薬剤を持参し、夜勤職員が利用者毎に配薬している。翌日日勤の職員とリーダーがダブルチェックで利用者に与薬している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に看護師同行し専門的な所は看護師から医師に伝えて頂いたりしている。巻き爪・敵便で出来ない介護士に代わって看護師が行ってくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と入院先の病院と連絡を取りながら退院に向けて話し合いを行い施設側はいつでも退院の受け入れが出来る体制にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の希望の書類を書いて頂いている。1年又は本人の状態を見ながら家族の気持ちを聞き入れている。	入所時に緊急時の対応方針について説明し、終末期の意志確認書に同意を得ている。その後、年1回家族に希望の確認を行っている。医師により重度化と診断された場合は、管理者と家族に説明したうえで、看取りケアプランを作成し、チームで看取りケアに取り組んでいる。今年度の看取り実施実績は1名、また現在重度化と診断され看取りケア中の方が1名いる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時・緊急対策マニュアルを置いてスタッフ間と共有している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。避難場所もスタッフが把握して自治会との協力体制を取っている。	災害訓練は年2回昼間の火災想定で、フロア合同の総合訓練を実施している。夜間想定 of 災害訓練は行っていない。事業所の災害訓練を自治会や近隣住民に案内しているが、現在、地域住民の参加はない。自治会の避難訓練に参加し協力関係を保っている。災害用備蓄品は飲料水や非常食など3日分を防災用備品と一緒に物置で保管している。備蓄品管理簿は作成しておらず、メモを付けて消費期限の管理を行っている。	災害訓練は定期的 to 実施していますが、夜間を想定した避難訓練が行なわれていません。訓練計画の中に夜間想定を組み入れて実施するよう期待します。また、災害用備蓄品の備蓄品管理簿を作成し、消費期限を管理するよう期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのペースに合わせた声かけをし申し送り時は部屋番号にて共有している。	年間研修計画に基づき、プライバシー保護に関する研修を受講し、フロア会議で接遇・倫理や利用者の対応について話し合っている。排泄や入浴介助の際は、利用者の尊厳を損ねないように配慮している。利用者の呼称は名字に「さん」付けで行い、職員同士の申し送りでは利用者の状況を部屋番号で共有している。個人情報が含まれている書類や薬剤は、事務室の鍵の掛かるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような声かけをしている。レクの種類の物をいくつか提供し本人に選んでやって頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な決まりはあるが、時間をずらしたり、その人のペースに合わせる様な工夫を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や起床時等に服選びを本人にしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの中に下ごしらえが出来るものはスタッフと一緒に行い後片付けもお盆拭き・コップ拭き／テーブル拭き等をやっている。	食事は、業者から献立付きの食材が届き、三食全てを職員が手作りしている。月内の約半分の日数は調理専門職員が調理し、それ以外の日はフロア毎に日勤職員が調理している。利用者はお盆拭き、コップ拭き、テーブル拭き等の各々出来ることを手伝っている。誕生会は3ヶ月毎にまとめて行い、フロア毎にケーキを購入し、提供している。月1回、普段のメニューとは異なる赤飯、天ぷら等を企画し、提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病を持っている利用者は医師の指示により食事量や水分制限がかかっている利用者もいるが、それ以外の利用者の方はバランスよく摂取されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯ブラシを準備をして見守りや介助を行っている。毎週1回は歯科の医師が訪問し口腔内の状態のチェックをしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターンを全スタッフが把握しており声かけにてトイレ誘導を行っている。	オムツを使用している方が2名おり、その他の利用者はリハビリパンツにパッドを使用して、全員がトイレでの排泄を行っている。排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレ誘導は小声で声掛けしている。車いすを使用している方で立位が難しい方も職員2人体制で対応し、トイレでの排泄を支援している。入所時にリハビリパンツを使用していた方が、支援を続けた結果、3ヶ月後に布パンツに改善した事例がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者には家族に乳酸菌の飲料を持参して頂いたりトイレ時には腹部のマッサージを行ったり便通をもよおす		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日ごと入浴する日が決まっているが利用者の気分や体調により曜日を変えて行っている。	入浴は一人週2回で、午前中に一日3名を基本としている。浴槽の湯は、1名毎に入れ替えて清潔保持している。リフト付きの広い浴室があり、車椅子を使用している方もリフトを使用して入浴している。浴室、脱衣所はエアコンと暖房設備で、ヒートショック対策をしている。湯舟に普段は入浴剤を、季節には、ゆずや菖蒲を入れ、香りや雰囲気を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースを優先し状況や状態により休息したり夜は安眠出来るように活動的に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合は様子観察を行い変化があれば都度医師と連兼が取れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族に生活歴を聞き出し得意な事や楽しみを見つけて支援している。四季を感じられる様に散歩にも行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の受診に家族が付き添いで診察が終わった後は家族と買い物をして帰ってくる。アジサイや桜の時期には送迎車で出かけている。	3日に1回程度、車いすを使用している方も一緒に近隣を散歩している。近くのスーパーマーケットに、散歩を兼ねて買い物に行くこともある。外出行事として、同法人の老健施設の送迎車を借りてあじさい見物に出掛けた。また、さくら通りまで散歩を兼ねたお花見に外出している。毎年、近くの村富神社に車いすを使用している方も一緒に、初詣に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の持ち込みは禁止となっているが、本人が金銭を持っていないと不安になる利用者に対してはお守り感覚で小銭を持たせている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話の要望があった時はスタッフが家族に電話をかけての対応を行ってから本人に代わってお話しして頂いている。手紙も書きたいと要望にも対応している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りものを利用者と一緒に作って飾っている。室内温度や音量にも気を付けて不快が内容にしている。	リビングは採光が良く、空調に配慮して適宜、排煙窓を開けて換気を行っている。リビングは床暖房が設置され、エアコンと空気清浄機付き加湿器を使用し、室内温度を調整している。壁面にイベントの写真やぬり絵を貼付し、入口には正月の干支の飾りつけやリースなどを飾っている。共用部分の清掃は、申し送り後に日勤の職員が手分けして行い、利用者もほうき掛けなどを手伝っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者と同じテーブルに座って頂いており会話の中にスタッフも交えて交流している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていたものを家族に持参して頂き、家で生活をしていた時の様な部屋作りをしている。写真や花を飾ったりしている。	各居室は窓からの採光も良く、エアコン、照明器具、ベッド、寝具一式、カーテン、クローゼットの備え付けがある。利用者は、馴染みの家具や家族の写真、本、ぬいぐるみ等を持ち込んでいる。居室には全体的に物品が少なく、スッキリとした設えになっている。大部分の利用者は昼食後に居室に戻り、おやつまでの時間を自由にゆったりと過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ている事を保っていけるように日頃の活動を怠ることなく支援している。安全面でも車いすの利用者が多いので操作の誤り等の確認を行い安全に移動が出来るように声かけを行っている。		

事業所名	グループホームひびき
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、引継ぎの時間に唱和している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出た時にお隣の方や6軒先隣の92歳のおばあちゃん他お声を掛けて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩に出た時にお声を掛けて頂いたときに会話が成立していませんが、温かく見守りして頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では管理者より細かく報告して頂いてメンバーの方から疑問に思われた所は上司に確認し次回の会議で結果報告をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議で管理者よりお話しをしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	ときでの研修や拘束委員からの伝達を毎月のYouTube研修で日頃のケアの見直し等もあり絶対に拘束はしていけないと周知徹底で取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にみんなで見守りをしてスピーチロック等やりがちな事もありますが気をつけてケアに努めという。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族が難しい方は司法書士の先生が後見人を付けている方もいる。何でも相談出来る関係を保っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談員が契約内容や重説を行い管理者も契約時に同行し疑問や不安をお聞きして納得されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会で何かあれば話しやすい環境を保って、ご意見があったときはスタッフに周知して行っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	以前の管理者よりも意見や提案も話しやすくスタッフみんなで施設を良くしていこうと、よく話し合いを行っている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今の管理者は良くスタッフの事を見てくれている。今はとても働きやすい。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の機会が以前よりも多く知識向上になって今後のケアに繋げていきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者がグループホーム連絡会に参加し他のグループホームと交流を持っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	早く環境に慣れて頂けるように優しくコミュニケーション取りながらご要望を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談員や管理者が面談されてスタッフにも周知している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コミュニケーションを大事にし話しやすい環境でご家族にも都度お知らせしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはやって頂き他の利用者ともコミュニケーションを取れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や毎月のお手紙等でご本人の様子を話している。家族とメールですぐに話しが出来る様になっている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望があれば要望に沿えるよう支援していく。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事の手伝いやレクでのゲーム参加などみんなで行えることを考えながらケアしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、いつでも遊びに来てくださいとお声をかけています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	例えば、お一人で過ごすのが好きな方もいるので尊重している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の医療情報やADL等を参考にケアに務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	例えば、うつ病の方もいるので気分や体調の変化にも気を付けて見守り・声かけをしている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング等で気づいた点を話し合い家族からの要望等を聞きケアプラン作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	『報・連・相』でよく話し合っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	そのような要望があれば管理者と話し合いが出来る職場になっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや自治会と関わりを持っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本院と連携しているが難しい場合は地域の専門の病院に受診している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本院の師長に異変があったら相談が出来るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	何かあれば本院と連携ができています。本院で入院の際はその後に対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアはチームで取り組んでいる。ご本人はもちろんご家族にも後悔がないようにコミュニケーションを密に取っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のサポートマニュアルも勉強しておくように色々と資料を頂き慌てないで対応をするように努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練に参加している。本部の方からも災害時のマニュアルを頂いている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	2年前の拘束委員会では「尊厳」について1年間勉強していました。気を付けて対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらのタイミングではなく入居者のタイミングを尊重しながらケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、出勤した時に一人一人に挨拶した際体調の具合を見て、その後の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前に浴後に着たい服があればお聞きしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	意思疎通が難しい時も、その時のメニューを話している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ときの栄養士の方や本院の師長からも水分チェック等足りているか気を付けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週火曜日に往診や訪問歯科より口腔ケアのアドバイスを受けて毎食の口腔ケアをしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄して頂けるようにチェック表を見ながら少し早めに誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を使わずに出来るだけ自然と排便が出来る様に散歩や冷水を飲んで頂いている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日が決まっているが、入浴前は声かけをして大丈夫かお聞きしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の変化をよく観察し休息を促している。エアコンの温度にも気を付けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わったときは声かけをしている。新しい薬が処方されたときは体調の変化を気にするように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり好きな事や楽しめる事が違うので毎日楽しく過ごして頂けるようケアに努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	二階の入居者はインドア派の方が多いので散歩も短めですが、要望があったら支援して行きたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は特に使うことがないので欲しいものがあったら家族に持ってきてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月のお手紙は渡している。電話したいと時は時間を見て家族に連絡している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにフロア内の装飾を製作している。入居者に折り紙や糊付けの手伝いをして頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアはお好きな席で食事や休息される雰囲気を作っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前に住んでいた頃の物を持ち込まれたり家族にも協力してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁にもトイレの方向や居室の中にも食事の時間が書いてある紙を貼っている事で理解して自立できるよう務めている。		



目標達成計画

事業所名

711-7016-6711

作成日

令和7年4月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間等に災害が起 き場合、他職員の連 絡に未設の体制に おき、災害時に 通信等が不通に なる可能性もある。	新役員自治会や近隣 住民と協力体制に とれる	自治会や運営推進会や ・散歩時近隣住民の 方に声かけ等をして協 力のお願いをする。	半年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。